

水の 話

FUJI CLEAN NEWS

2019
Spring

NO. 183

【特集】

半田運河と醸造文化。

産業の発展と美しい景観を支えた運河の魅力

【フジクリーンレポート】

2019年度予算案で、宅内配管工事費の補助が決定。

単独から合併への転換推進にさらなる追い風。

半田運河と醸造文化。

産業の発展と美しい景観を支えた運河の魅力

穏やかな水の流れと、美しく整備された遊歩道沿いに建ち並ぶ黒壁の倉庫。
半田運河の風景は、訪れる人をどこか懐かしい気分へと誘ってくれます。
昔から酒や酢、味噌などの醸造業が盛んだった半田市において、
江戸へ醸造品を運ぶ“産業の要”として繁栄を築いた半田運河。
時代をつくり、時代とともに変化し続けてきた、その変遷をたどります。

運河沿いには多くの蔵が建ち並び、
醸造業で栄えた江戸時代の面影を今に伝えています



約200年にわたって実際に酒造りが行われた酒蔵を使い、
江戸時代からの歴史を誇る酒造りの道具・資料を展示した國盛 酒の文化館

DATA

2019年3月1日現在

半田市(人口120,001人 面積47.42平方キロメートル)
愛知県知多半島の中央部東側に位置する半田市は、古くから海運業・醸造業で成長し、知多地域の政治・経済・文化の中心として発展してきました。1937(昭和12)年10月1日に、半田・亀崎・成岩の3町が合併し、県下6番目の「半田市」として発足しました。「亀崎潮干祭」をはじめとする山車祭りは有名で、多くの伝統や歴史、文化を現在に受け継いでいます。

半田の発展と江戸の食を支えた醸造業。

良質な地下水でつくられた知多の酒

西を伊勢湾、東を三河湾で囲まれた愛知県の知多半島は、古くから自然条件を活かした農業や漁業だけでなく、さまざまな産業を生み出してきました。特に江戸時代には、酒や酢、味噌、味醂など多種多様な醸造業が発展。その先駆けである酒造りは、知多半島の温暖な気候と澄んだ空気が米作りに適していたことから広がっていきました。しかし当時、酒は幕府によって厳しく統制されており、米不足の際には酒造りに使う米の量が制限されました。18世紀後半の天明の飢饉では全国的に酒造りが制限されましたが、尾張では飢饉の影響が少なく、同時に知多半島は尾張藩のお膝元であったことから比較的規制が緩かったようです。こうして、他の地域で酒造りが十分にできなかった18世紀後半から19世紀にかけて、

知多の酒造業は飛躍的に成長することができました。

さらに醸造に欠かせない「水」もまた、酒造りにたいへん適していました。酒は、米や米麴と水を合わせて発酵させるため、水の成分は酒の風味や味に大きな影響を及ぼします。知多半島の地下水は、カルシウム・マグネシウム・塩分などのミネラル分を適度に含んだ良質な硬水だったため、この硬水を用いることで、辛口の香りの高い酒を造ることができました。これが、酒の主な市場であった江戸の消費者に受け入れられたのです。当時江戸では、灘や伊丹などの上方の酒が圧倒的なシェアを誇っていましたが、尾張の酒で通用したのが半田を中心とした知多の酒だったと言われています。「伊丹・池田・灘」に次ぐ品質と生産量を誇っていた知多の酒は、「中国銘酒」と呼ばれ、高い評価を得ていました。

逆境を乗り越え成長する知多半島の醸造業

しかし19世紀前半になると、酒価格の下落や江戸に入る酒が供給過多になり、知多の酒は苦戦を強いられるようになります。こうした逆境の中で、酒造りの工程で生み出される大量の酒粕を有効利用して、本格的な粕酢造りを始めたのが、ミツカングループ(以下ミツカン)の創業者である初代中野又左衛門です。古来より酢は酒と深い関わりをもっていました。酢をつくる酢酸菌が酒を駄目にするのがわかってきたため、酒と同じ蔵の中には同居させないことが通例でした。つまり、酒造家の又左衛門が粕酢造りを始めたことは、まさに大きな“賭”だったのです。

しかし、この賭が見事に的中。この頃江戸では、飯に酢と塩を加えて酢飯をつくり、これとネタを合わせて握る「早す

し」が流行しており、これによく合ったのが、旨みや甘みがある粕酢でした。それまで主流だった米酢よりも安価で美味しい又左衛門の粕酢は、瞬く間に人気を博し、江戸市場へと販路を拡大。寿司の普及によって半田の酢は、全国へ知れ渡り、やがて日本を代表する食酢メーカーへと成長していきました。又左衛門の成功は、他の酒造家にも影響を与えることとなり、同じく酒粕からつくられる味醂や、酒蔵で使われていた木桶や甕を再利用してつくる味噌など、酒造業から別の醸造業へ転換する家が増えていきました。一方で酒造家たちも、決してあきらめることなく多くの工夫と努力を重ね、品質を向上させていきました。逆境と無駄を新しい産業や改良へつなげたことで、知多半島や三河地域には多様な醸造業が広がり根づいていったのです。

醸造業と海運業で繁栄を遂げる半田

知多半島で醸造業が発展したもう一つの要因に、海運業が盛んだったことが挙げられます。江戸時代、巨大市場である江戸へ酒や酢を運ぶためには、船による輸送手段の確保が必要でした。特に酒は、変質、蒸発しやすいため、輸送にはスピードが求められます。知多半島の船は、17世紀には伊勢湾内や熊野、遠江など、半島周辺への往来が活発化していましたが、18世紀以降になってさらに物流が増えるのに伴い、西は大阪から瀬戸内、東は江戸へと航路を広げていきました。

中でも、半田や亀崎をはじめとする衣ヶ浦湾沿岸は、酒・酢などを江戸に運ぶ拠点として大きく発展しました。江戸時代の半田は、上半田と下半田の集落に分かれていましたが、1700年頃に元々海だった下半田の集落の中心で山方新田の開発が始まると、同時に半田運河の原形が造られました。醸造蔵の目の前に港ができたことで、すぐに製造品を船積みして江戸への輸送が可能となりました。帰りの船には、肥料や大豆、魚油などが積まれたことで、江戸の文化が入ってきました。そのため、下半田の海に面した場所には多くの人が集まり、大きな屋敷や蔵が建ち並び、船大工や船に乗り込む水主たちも町の一角に集住するようになるなど、常に賑わいを見せていました。こうして醸造業と海運業の両輪によって、半田は知多半島でも一、二を争う繁華な町へと発展していきました。

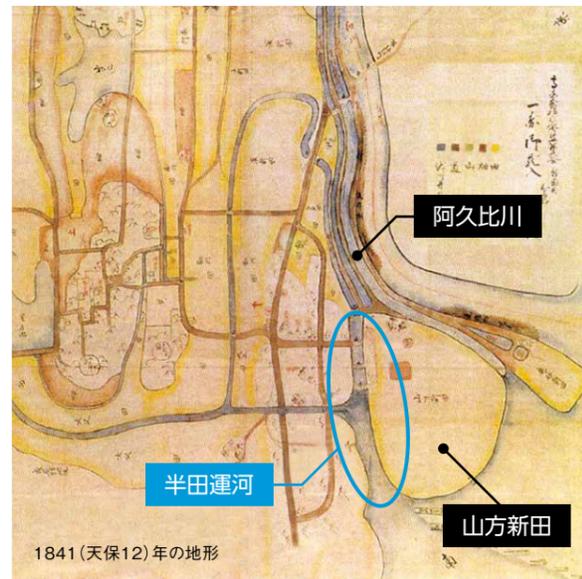
column 17世紀後半、幕府がおかれた江戸に物資を運ぶため、東回り航路と西回り航路が開かれました。この頃、遠隔地をつなぐ船の主流となっていたのが弁才船です。弁才船は日本で独自に発達した船で、船の中央には大きな帆柱が1本だけ立っており、これと帆桁を組み合わせる1枚の大きな帆を調節しながら航海します。必要な操作は、帆と梶の調整だけのため、西洋型帆船に比べて少ない人数で船を動かすことができ、その分、より多くの積荷を載せることができました。中野又左衛門もまた複数の弁才船を共同で所有しており、多くの酢を江戸へ運んでいました。



MIZKAN MUSEUMで実寸大で復元されている弁才船。帆柱は横に寝かせた状態で展示されています。

海運業を飛躍させた半田運河の成り立ち

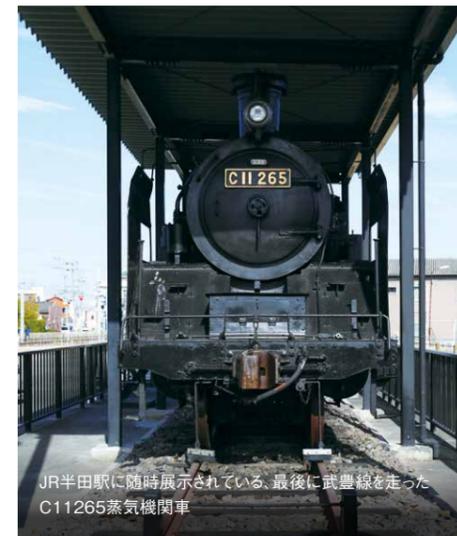
産業の発展に大きく貢献した半田運河ですが、一方でこの地域は大雨が降ると川が氾濫し、地域の人々に大きな痛みを与えていました。半田運河は十ヶ川の下流に位置しており、それと並行して流れていたのが、知多半島最大の河川・阿久比川です。阿久比川は川底が平野面よりも高くなっている天井川だったため、たびたび氾濫を起こしていたのです。この阿久比川の水を排出することを目的に開削され、つくられたのが半田運河です。しかし、1855(安政2)年の暴風雨で、またも阿久比川が氾濫し、上流の白沢・阿久比(現在の阿久比町)や岩滑(半田市)などの村々を押し流した濁流が下半田を襲い、甚大な被害を与えました。この状況を受け、当時庄屋を務めていたミツカンの三代目である中野又左衛門は、運河の改修を決意。自らの資金を投じ尽力したことで、半田運河は現在にほぼ近い姿へと作り変えられました。延長573メートル、幅33メートルの大拡張と同時に川の改修も行われたため、当時の醸造業や海運業は一層活発化し、港の勢いは著しく飛躍していきました。



1841(天保12)年の地形



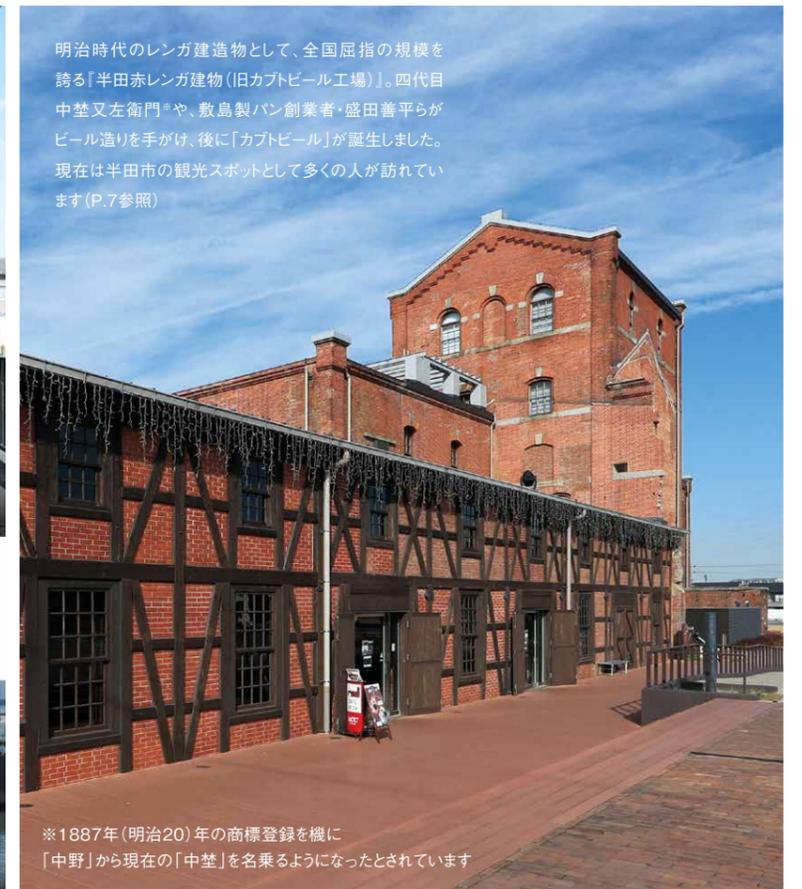
中野又左衛門家とともに半田運河の整備に取り組んだ、半田の富豪、中野半六の別邸。国指定の重要文化財



JR半田駅に随時展示されている。最後に武豊線を走ったC11265蒸気機関車



1959(昭和34)年の伊勢湾台風後に設置された水門



明治時代のレンガ建造物として、全国屈指の規模を誇る「半田赤レンガ建物(旧カプトビール工場)」。四代目中野又左衛門や、数島製パン創業者・盛田善平らがビール造りを手がけ、後に「カプトビール」が誕生しました。現在は半田市の観光スポットとして多くの人が訪れています(P.7参照)

※1887年(明治20)年の商標登録を機に「中野」から現在の「中野」を名乗るようになったとされています

港から水辺空間へ。時代とともに変わる半田運河の役割。

輸送手段の発展による海運時代の終焉

時代も明治に入ると、半田の繁栄を支えてきた海運業は大きな転換期を迎えます。東京では大手の海運会社が組織され、東京向けの荷物の多くを取り扱うようになりました。さらに1872(明治5)年に東海道線が新橋～横浜間で開通。知多半島では1886(明治19)年、東海道線建築用の資材を運ぶために東海地区で初めて武豊線が開通し、1889(明治22)年に東海道線が全線開通すると、半田から東京への鉄道輸送が可能となりました。しかし鉄道は運賃が高く、大量輸送にも向いていなかったため、時間は要しても大量の製品を安く運ぶことのできる船便と鉄道という二つの輸送手段を共存させていました。その後、伊勢湾台風を契機とした水門の設置や、道路網の整備による陸送手段の発達、川の水量の減少などによって、船を輸送手段として残していくことは次第に厳しくなっていました。そうして、運搬船が行き交う半田運河の風景は失われていき、港としての役割はついに終焉を迎えました。

整備事業により、癒しを与える水辺空間へ

昔の形を残しながらも港として利用されなくなった半田運

河は、次第に生活排水の流入によって汚泥が堆積し、悪臭を放つ川へと変わっていきました。かつて運搬船や多くの人で賑わっていた運河沿いからは、徐々に人も離れていってしまいました。

しかし、半田運河は堤防としての役割を担っていたため、護岸の老朽化が問題視されたことで、港湾管理者である愛知県が、1991(平成3)年から『衣浦港半田運河整備計画』をスタートさせました。台風などによる高潮浸水災害を未然に防ぐための護岸改修をはじめ、今後想定される地震や台風から守るための補強、悪臭を放つ土砂の浚渫工事を行いました。汚泥の除去作業後は、護岸を3メートル前に出して水面に近づけるようにしました。さらに半田水門から上流へ700メートルの区間には、自然石による石積みを行い、白色系の花崗岩で黒塀との調和を図るなど、景観を損なわないための配慮も加えられました。水質が改善された川沿いには、石張りの遊歩道も設置されました。半田運河は、昔ながらの風景と美しい水辺を楽しめる「癒しの空間」として、新たな役割をスタートさせたのです。

市民、企業、市とのコラボで生まれた景観

新しく生まれ変わった半田運河は、市民にもまた、まちを象徴する特別な存在であることを気づかせました。この風情ある景観を守ろうという機運が高まり、半田市では、1995（平成7）年に半田市ふるさと景観条例を施行。蔵と運河の風景を、半田市を代表する景観の一つに設定し、半田市の産業と港の歴史を踏まえた景観づくりを目指すことを決定しました。運河周辺は景観形成重点地区に指定され、景観に配慮した建築物等への誘導や、住宅の新築やリフォームでは黒い蔵の色合いに合う外観にしてもらうための補助金制度を整えました。周辺の道路には、茶色の脱色アスファルトを使用したり、運河沿いの緑を増やすなど、専門家のアドバイスを踏まえたさまざまな整備に取り組みました。また、民間企業とも連携を図り、運河沿いに並ぶミツカンの蔵は、再整備によって新しくされる際にも、昔ながらの雰囲気配慮して建てられました。2015（平成27）年にオープンした、ミツカンの歴史と食文化を伝える体験型博物館「MIZKAN MUSEUM（MIM）」は、黒塀の懐かしさと現代的なデザインが共存した印象的な建物となっており、人気を博しています。自治体だけでなく、企業や市民、NPOが一体となって歴史ある半田運河の景観を守り、発展させてきたこれらの活動は、2017（平成29）年に「都市景観大賞」を受賞し、社会的にも高い評価と注目を集めています。

人が集い、水辺を楽しむ魅力あるまちづくり

さらに半田市では、半田運河を貴重な“観光資源”と考え、多くの人に訪れてもらうための多様な取り組みをスタートさせています。春頃には運河沿いに鯉のぼりをあげたり、夏には水面にLEDの幻想的な“ヒカリノ玉”を浮かべる『半田運河Canal Night』を行っています。また“半田運河を楽しむ”をコンセプトに『半田運河HOTORIプロジェクト』を企画し、運河を見ながら気軽に朝食やお酒を楽しめるイベントを開催しています。他にも市民団体が主体で行っている「手づくりいかだレース」のように、今後は広く市民の方々に運河を活用してもらうための仕組みも計画しています。

かつて、江戸という大都会へ飛び出す入口だった半田運河は、長い時を経て、今ではさまざまな人が訪れ、集まる場所へと変わろうとしています。その穏やかな水辺空間は、半田のまちとそこに集う人々の新たな交流と愛着を生み出しながら、次の歴史を静かに刻んでいくことでしょう。

【取材協力・写真提供・資料提供】

- 半田市 建設部 都市計画課 / 市民経済部 観光課
- 半田市立博物館
- ミツカングループ

【参考資料】

- 中笠家文書にみる醸造りの歴史と文化（日本福祉大学知多半島総合研究所 博物館「酢の里」共編 著 / 中央公論社 発行）
- MATAZAEMON 七人の又左衛門 ミツカングループ創業二〇〇周年記念誌 編集委員会 編（ミツカングループ本社 発行）
- 一般財団法人 招鶴亭文庫 ホームページ



半田運河の幻想的な姿が楽しめる半田運河Canal Night



端午の節句を祝い、運河沿いを泳ぐ鯉のぼり



親子連れに人気の半田運河HOTORI brunch



半田運河の会の主催で行われている手づくりいかだレース



ミツカンの酢づくりの歴史や、醸造の技術、食文化の魅力などを伝える体験型博物館MIZKAN MUSEUM（愛称MIM）



一口で明治時代にタイムスリップ！ 深い味わいがクセになる復刻版「カプトビール」

昔から酢や酒の醸造業で有名な半田市ですが、実はビールの製造でもその名を広めていました。ミツカンの四代目中笠又左衛門と敷島製パン創業者の盛田善平が中心となって造り始めたビール、これが後の「カプトビール」です。その味は、1900（明治33）年のパリ万国博覧会で金牌を受賞するほど。その後、太平洋戦争を機

に製造中止となりましたが、2005（平成17）年に、かつてカプトビール製造工場であった半田赤レンガ建物の保存活動を行う「赤煉瓦倶楽部半田」の手によって復刻発売されました。現在は、観光施設として生まれ変わった「半田赤レンガ建物」でいつでもカプトビールが飲めるようになり、再び注目を集めています。

ここで購入できます！

半田赤レンガ建物（旧カプトビール工場）

【国登録有形文化財、近代化産業遺産】
愛知県半田市榎下町8番地

TEL 0569-24-7031 | 休業日 年末年始
営業時間 9:00～17:00 ※カフェ・ショップは10:00～
Web <https://handa-akarenga.jp/>

1898（明治31）年に明治建築界の3大巨匠の1人と言われる妻木頼黄の設計により誕生したカプトビール製造工場。一度は解体の危機に迫りましたが、市民の声により保存が実現しました。大手ビールメーカーに挑んだ起業家精神を現代に伝えています。館内では、常設展示室やショップを楽しめるほか、カフェでは「生」カプトビールを味わうことができます。



味は、フルーティーで飲みやすい「明治」と今風のラガー系に近い「大正」の2種類で、飲み比べも楽しめます。

2019年度予算案で、宅内配管工事費の補助が決定。 単独から合併への転換推進にさらなる追い風。

合併浄化槽転換における個人のコスト負担を軽減

環境省浄化槽推進室から、合併浄化槽の効率的・合理的な整備を推進するための2019年度予算(案)の概要が、2018年12月21日に通知されました。浄化槽整備のための国庫助成は、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策費(臨時特例)」「二酸化炭素排出抑制事業費等補助金(浄化槽分)」を含み、前年比115.5%の115億7,700万円を計上しています。

注目すべきなのは、浄化槽業界の長年の悲願であった、「**単独転換に伴う宅内配管工事費の助成**」に取り組むことが盛り込まれたことです。これまで単独浄化槽から合併浄化槽への転換時には、合併浄化槽とその周辺1メートルの工事のみを助成していましたが、新たに個人設置型、市町村設置型ともに、合併浄化槽への流入管、ますの設置、側溝までの放流管を対象に、上限30万円の補助を行います。単独浄化槽は、未だ約400万基*が残存していると言われていますが、一般家庭

にとって合併浄化槽の設置はコストの負担が大きく、転換の遅れの要因になっていると考えられていました。今回の助成金の新設は、既設単独浄化槽の撤廃を推し進め、生活排水の垂れ流し撲滅への大きな一歩になると、期待が高まっています。

循環型社会を目指し、市町村整備事業を後押し

この他にも、生活環境の保全および公衆衛生の向上を図るため、市町村が実施する浄化槽整備の推進や、地球温暖化対策を助ける浄化槽の省エネ改修への国庫助成が、下記のように拡充および見直しが行われています。

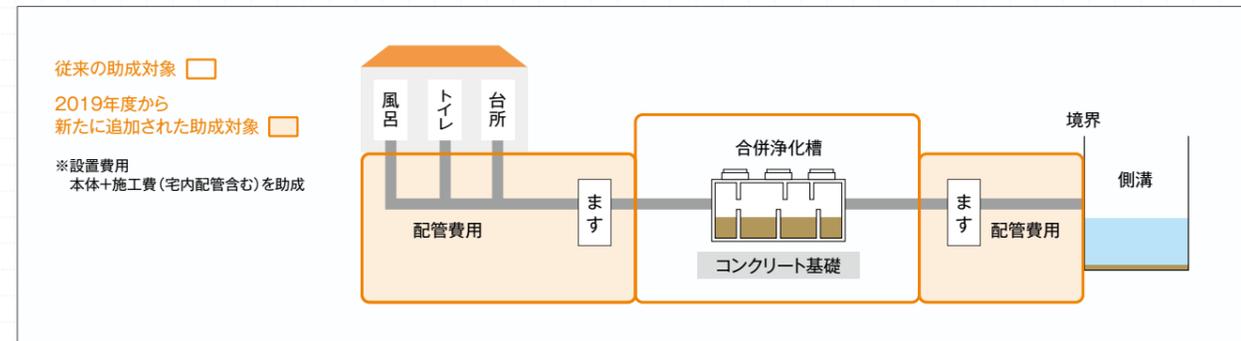
こうした浄化槽整備に向けた国庫助成が広がることによって、汚水処理施設未普及の解消や、浄化槽を活かした災害に強いまちづくりを推進し、私たちが目指す快適な暮らしの確保にまた一歩踏み出すこととなります。2019年度予算成立後に発出される正式な改正通知に、大きな期待が集まっています。

* 2017年3月末現在(環境省「平成29年度 浄化槽の指導普及に関する調査結果」より)

国庫助成の内容(抜粋)

- ① 浄化槽市町村整備推進事業における共同浄化槽設置(管渠への助成含む)及び複数戸設置要件の撤廃【市町村設置型】
- ② 環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業における環境配慮の性能・設置要件見直し【個人設置型、市町村設置型】
- ③ 公的施設・防災拠点単独浄化槽集中転換事業の補助要件の緩和【市町村設置型】
- ④ 浄化槽台帳の導入推進への循環型社会形成推進交付金(計画策定調査費)による支援
- ⑤ 省エネ型浄化槽システム導入推進事業

合併浄化槽への転換における補助対象イメージ



●本記事の内容は、平成30年12月21日環境省浄化槽推進室「2019年度浄化槽推進関係予算(案)の概要」および環境省「2019年度環境省重点施策集(平成30年12月)」に基づき作成しています。正式な予算成立によって若干の変更が生じる可能性があります。

NEWS

「水泥新聞」が創刊4周年を迎え 紙面をリニューアル!

2015年より毎月発行してまいりました「水泥新聞」が、おかげさまで創刊4周年を迎えることができました。これを機に、3月に発行した51号からは紙面デザインを一新し、わかりやすさを重視しました。今後も皆さまのお役にたてる読み物を目指していきます。新しくなった「水泥新聞」を、今後ともよろしくお願いいたします。リニューアル版からは、不定期発行に変更します。



新キャラクター
「沢 カニ次郎」



リニューアル紙面デザイン

「水泥新聞」は以下の方法でご覧いただけます。

- 1 フジクリーン ホームページから
- 2 当社担当営業、もしくはお近くの支店・営業所にご連絡ください。
- 3 維持管理ネットワーク会員の皆様には、ご希望いただければメールで配信いたします。下記までご連絡ください。
「フジクリーン通信」編集係
eigyo_net@fujiclean.co.jp

2020年新卒向け 採用インターンシップを 開催しました。

フジクリーンでは、2019年2月に、2020年新卒向けインターンシップを開催しました。今回のインターンシップでは、主に開発業務に取り組んでいたことを目的とし、浄化槽の研究現場や分析室、稼働している浄化槽の見学を行いました。さらに実験槽を用いて、チームごとに製品の改良方法を考察し、仮説の立案、設計、検証のプロセスを体験しました。参加者からは、「課題は少し難しかったが、開発の視点を学べたことは新鮮で楽しかった」と感想が寄せられました。



経済産業省から 「地域未来牽引企業」に 選定されました。

フジクリーンは、2018年12月、経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定されました。「地域未来牽引企業」とは、2017年7月に施行された「地域未来投資促進法」の関連施策として行われている取り組みの一つで、今後の地域経済を牽引することが期待される「地域未来牽引企業」を選定・公表しており、今年度は1,543社が選定されています。今後は、「地域未来牽引企業」の1社として選定された自覚と誇りを持って、地域経済の中核として活躍できるよう、地域経済の発展に努めてまいります。



地域未来牽引企業



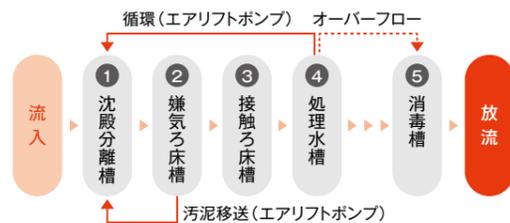
新製品

業界初!全高1,860mm*を実現した、※35人槽クラス 全高浅型の中型浄化槽CV型が新発売!! [35人槽~50人槽]

環境性能、施工性、維持管理性のすべてを改善!

2019年3月、環境性能、施工性、維持管理性のすべてにおいて従来機を向上させた、中型浄化槽CV型を新発売しました! アパートや事務所、工場等の対応浄化槽として、ぜひご注目ください!

■ 流入から放流のフロー



1 全高浅型のコンパクトタイプ!

CV型は、従来機種CSLII型に比べ、35人槽クラスで全高2,390mmから業界初の1,860mmへと大幅ダウン! 530mmものコンパクト化を実現しました。超浅型のため、湧水発生や岩盤接触のリスクが低減し、施工も安心して行うことができます。



■ 仕様/価格

型式	型	CV-35	CV-42	CV-50
処理方式		接触ろ床方式		
処理対象人員	人	35	42	50
最大横幅	mm	2,100	2,200	
最大縦幅	mm	4,530	4,550	5,280
全高	mm	1,860	2,110	
流入管底	mm	450	500	
放流管底	mm	550	600	
マンホール	mm	φ450×4枚		
対応ブロウ		EcoMac250		EcoMac300
消費電力(50/60Hz)	W	170/200		230/230
環境配慮型浄化槽		○	○	○
本体価格(税別)	円	4,450,000	5,310,000	6,360,000

※本体価格は、北海道、離島を除きます。

2 窒素除去・COD除去性能を追加

処理性能は、BOD20mg/L以下、SS15mg/L以下に加え、T-N20mg/L以下、COD30mg/L以下を実現しました。

■ 放流水質

BOD	T-N	SS	COD
20	20	15	30

放流水質mg/L: 日間平均値
(一財)日本建築センターによる性能評価値

3 槽外エア配管は1系統

従来機種は2本だった槽外エア配管は、CV型ではバルブユニットなしの1本となり、施工性が向上しました。

4 槽内落差100mm

槽内落差をこれまでの150mmから100mmにすることで、設置レイアウトの自由度が大幅に広がりました。

5 接触ろ床方式に変更

処理方式を接触ろ床方式に変更。シンプルな内部構造により、点検などの維持管理性がアップしています。

新製品

汎用型タイマー付きブロウのUniシリーズに新機種登場 UniSBが2019年3月より新発売!

フジクリーンCENeco型など4種の浄化槽に対応! タイマープログラムで簡単設定。

UniMBの特徴はそのまま、簡単設定で抜群の操作性を実現。

主要メーカー浄化槽の逆洗回数と逆洗時間があらかじめ搭載されているUniMBシリーズに、新たな機種UniSB(ユニエスピー)が誕生しました。UniSBは、フジクリーンCENeco型や他メーカーの全4種の浄化槽に対応した1つブロウで、UniMBと同様のコンパクト設計に加え、優れた省エネ性や操作性、メンテナンス性を実現しています。また、タイマー設定ボタン横の2次元バーコードから、操作説明書をご確認いただけます。



UniSBタイマー操作説明書は
こちらから確認してください



フジクリーンの汎用型タイマー付きブロウ(UniMB/UniSB)は、ココが違う!

省エネNo.1

タンク構造の最適化やマルチバルブ化により圧力損失を低減した、クラスNo.1の省エネブロウです。

コンパクトNo.1

コンパクト設計により軽量化、省スペース化を実現しました。軽くて扱いやすく、設置スペースにも困りません。

優れた操作性

タイマー操作部のカバーはヒンジ形状を採用しており、ワンタッチで開閉が可能! 工具も必要なく、メンテナンスも簡単です。

■ UniSBプログラム選定表

プログラム番号	運転内容 [標準設定]	タイマー設定、風量に対応するメーカー一覧(上段:浄化槽 下段:ブロウ)*			
		UniSB60	UniSB80	UniSB100	
P1 (初期設定)	50分On/20分Off 繰り返し運転	フジクリーン工業	CENeco-5	CENeco-7	CENeco-10
		フジクリーン工業	EcoMac60T	EcoMac80T	EcoMac100T
P2	逆洗5回/日 (1回目停止1:30-1:45)	ニッコー	浄化王-5	浄化王-7	浄化王-10
		テクノ高槻	FP-60N	FP-80N	HP-100N
		ニッコー		浄化王x-5	浄化王x-7
		テクノ高槻		FP-70N	FP-90N
P3	逆洗5回/日 (1回目停止1:30-1:45)	ニッコー		浄化王NEXT-5	浄化王NEXT-7
		テクノ高槻		NT-70	NT-100

※各浄化槽メーカーの維持管理要領書より引用。浄化槽メーカー、ブロウメーカーの法人名称は省略。設置時期により、ブロウメーカーおよび機種名が異なる場合があります。

UniSBは、CENeco型対応ブロウ EcoMac-Tシリーズの後継機種です。

UniSBは、フジクリーンのCENeco型用1つブロウEcoMac-Tシリーズの後継機種となります。CENeco型をご使用の場合は、2019年4月より、UniSBが対応ブロウとなりますのでご注意ください。



省エネ基準のわずか40%程(間欠換算値)の消費電力を実現したCENeco型

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

愛知県碧南市
油ヶ淵美化ネット



代表
山中 功博さん

あしぶね 自生する葦で船を造る「葦船学校」で、 楽しみながら油ヶ淵の水質浄化に貢献！



2019年の
乗船会は、
7月と11月に
実施する予定

造船会では、1日で中型葦船を1隻製作(2019年は暑さを避けるため4月に実施)

碧南市と安城市の境に位置し、愛知県唯一の天然湖沼である「油ヶ淵」は、ナゴヤドーム13個分の広さながらも、水深が平均で約3メートルと浅くて水量が少ない湖です。流入入に乏しい閉鎖性水域であることから汚濁が進んでしまった油ヶ淵の水環境を、少しでも改善したいと活動を始めたのが、市民団体「油ヶ淵美化ネット」です。油ヶ淵美化ネットは、かつて、油ヶ淵への流入河川である「半場川」の浄化活動に取り組んでいた榊原しげ子さん(故人)が、葦船造りの先駆けであるNPO法人カムナプロジェクト(現:アカルプロジェクト)と出会ったことをきっかけに、2007(平成19)年に設立しました。現在も活動の中心となっているのが、油ヶ淵に自生する葦を使って葦船を造る「油ヶ淵葦船学校」です。葦は、水質浄化の作用を持っており、刈り取ることで生育を促進させます。そのため葦を刈ることが油ヶ淵の水質改善の一助になるだけでなく、船を造り乗船会を行うことで、「水質改善活動」や「油ヶ淵水辺公園」の象徴的

なイベントになることを目標としています。

設立時は、NPO法人カムナプロジェクトの全面指導で葦船を造りましたが、今では技術を継承した油ヶ淵葦船学校の職人の指揮のもと、子供たちを中心としたたくさんのボランティアの手によって造られています。毎年1~2隻を製作し、これまでに14隻を製作しました。毎年7月の「油ヶ淵浄化デー」に実施している乗船会では、多くの方が葦船体験を楽しんでいます。2011(平成23)年からは安城産業文化公園デンパークでの展示が始まり、葦船を台車に乗せて7キロメートルの道のりを運ぶ「陸渡御(嫁入り道中)」も、新しいイベントとして楽しまれています。

油ヶ淵美化ネットでは、他にも油ヶ淵の水質調査やアースデイへの参加など、さまざまな活動に取り組んでいます。こうした活動が評価され、2018(平成30)年に愛知県環境保全関係功労者表彰を受賞。今後は、活動の継続と継承に取り組みながら、市民に愛される美しい油ヶ淵の実現を目指していきます。



美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)869-8680	沖縄営業所 (098)862-9533
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	
郡山営業所 (024)944-7780	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2019年4月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室